

・解答

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	減価償却費	20,000	備品	600,000
	備品減価償却累計額	250,000		
	未収入金	300,000		
	固定資産売却損	30,000		
別解	減価償却費	20,000	備品減価償却累計額	20,000
	備品減価償却累計額	270,000	備品	600,000
	未収入金	300,000		
	固定資産売却損	30,000		
2	前受金	50,000	売上	700,000
	受取手形	400,000	現金	10,000
	売掛金	260,000		
3	当座借越	700,000	現金	800,000
	当座預金	100,000		
4	通信費	84,000	普通預金	84,000
5	買掛金	180,000	仕入	180,000

・解説

1. 固定資産の売却・未収入金に関する問題です。

固定資産は期首に売却する場合と、期中（または期末）に売却する場合とで処理が異なるので、まず問題がどちらに該当するのか確認しましょう。

■期首に固定資産を売却する場合

当期の減価償却費はゼロなので、取得原価から期首備品減価償却累計額を差し引いて売却時の帳簿価額を計算し、さらに売却価額との差額で売却損益を計算します。

$$\text{売却時の帳簿価額} = \text{取得原価} - \text{期首備品減価償却累計額}$$

■期中（または期末）に固定資産を売却する場合

当期の減価償却の処理に関する指示が入るので、それによって当期の減価償却費を（月割で）計算します。そのうえで、取得原価から期首備品減価償却累計額&当期の減価償却費を差し引いて売却時の帳簿価額を計算し、さらに売却価額との差額で売却損益を計算します。

$$\text{売却時の帳簿価額} = \text{取得原価} - \text{期首備品減価償却累計額} - \text{当期の減価償却費}$$

■本問はどっち？

問題文の「平成24年7月31日に ¥ 300,000 で売却」「決算日は3月31日」から期中に売却したことが分かります。

また、問題文に「**当期首から売却時点までの減価償却費は月割で計算すること**」という指示があるので、まず当期の減価償却費を計算します。

なお、当期の減価償却費は、12 か月分ではなく **4 か月分**（平成 24 年 4 月 1 日～平成 24 年 7 月 31 日）なので間違えないように気をつけてください。

$$600,000 \text{ 円} \div 120 \text{ か月 (10 年)} = 5,000 \text{ 円/月}$$

$$5,000 \text{ 円/月} \times 4 \text{ か月} = 20,000 \text{ 円}$$

次に、期首備品減価償却累計額を計算しますが、平成 19 年度については **12 か月分**ではなく **2 か月分**（平成 20 年 2 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）なので間違えないように気をつけてください。

- ・平成 19 年度：2 か月（平成 20 年 2 月 1 日～平成 20 年 3 月 31 日）
- ・平成 20 年度：12 か月（平成 20 年 4 月 1 日～平成 21 年 3 月 31 日）
- ・平成 21 年度：12 か月（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）
- ・平成 22 年度：12 か月（平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日）
- ・平成 23 年度：12 か月（平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日）

$$600,000 \text{ 円} \div 120 \text{ か月 (10 年)} = 5,000 \text{ 円/月}$$

$$5,000 \text{ 円/月} \times 50 \text{ か月} = 250,000 \text{ 円}$$

当期の減価償却費と期首備品減価償却累計額の金額を計算したら、取得原価からこれらを差し引いて売却時の帳簿価額を計算します。

$$\text{取得原価 } 600,000 \text{ 円} - \text{期首備品減価償却累計額 } 250,000 \text{ 円} - \text{当期の減価償却費 } 20,000 \text{ 円} = 330,000 \text{ 円}$$

最後に、売却時の帳簿価額と売却価額との差額で売却損益を計算します。売却価額 300,000 円は商品売買以外の取引で発生した債権なので、売掛金ではなく未収入金で処理します。

- ・売却時の帳簿価額 = 330,000 円
- ・売却価額 = 300,000 円
- ・差額 = 30,000 円（帳簿価額 > 売却価額…**売却損**）

★解答仕訳

(借) 減 価 償 却 費 20,000 / (貸) 備品 600,000
(借) 備品減価償却累計額 250,000
(借) 未 収 入 金 300,000
(借) 固 定 資 産 売 却 損 30,000

なお、上記の仕訳は、「当期の減価償却の処理」と「売却の処理」を 1 本の仕訳にまとめていますが、まとめずに別々に処理しても構いません。その場合、借方と貸方の備品減価償却累計額のコличествоが異なります。

★別解

(借) 減 価 償 却 費 20,000 / (貸) 備品減価償却累計額 20,000
(借) 備品減価償却累計額 270,000 (貸) 備 品 600,000
(借) 未 収 入 金 300,000
(借) 固 定 資 産 売 却 損 30,000

固定資産の売却に関する問題は、第 102 回の問 2や第 105 回の問 2、第 108 回の問 1、第 115 回の問 4、第 119 回の問 5、第 120 回の問 3、第 122 回の問 5、第 132 回の問 2、第 135 回の問 3、第 136 回の問 2、第 137 回の問 3、第 138 回の問 2、第 142 回の問 1、第 146 回の問 2、第 149 回の問 5でも出題されているので、あわせてご確認ください。

2. 売上取引・前受金・手形取引に関する問題です。

この問題は【前受金に関する仕訳】【裏書手形の受取に関する仕訳】【売掛金に関する仕訳】【発送費用に関する仕訳】に分けて考えましょう。

【前受金に関する仕訳】

問題文に「代金のうち ¥ 50,000 については注文時に受け取った手付金と相殺し」とあるので、取引に先立って受け取っていた前受金を減額する仕訳を切ります。

☆参考・前受金受取時の仕訳（既に切られた仕訳）

(借) 現金など 50,000 / (貸) 前受金 50,000

★解答①・売上の計上にともない前受金を相殺する仕訳

(借) 前受金 50,000 / (貸) 売上 50,000

なお、仮受金と前受金についてはきちんと区別できるようにしておいてください。

- ・仮受金…**内容が不明**のお金を受け取った場合に仮に計上する勘定
- ・前受金…**商品売買に先立って**お金を受け取った場合に計上する勘定

【裏書手形の受取に関する仕訳】

問題文に「¥ 400,000 については上杉商店振出し、長野商店受取りの約束手形を裏書譲渡され」とありますが、他店振り出しの約束手形を裏書譲渡された場合は、将来、**手形代金を受け取る権利が発生する**ので受取手形を増額します。

★解答②・売上の計上にともない裏書手形を受け取ったさいの仕訳

(借) 受取手形 400,000 / (貸) 売上 400,000

【売掛金に関する仕訳】

残額の 250,000 円については売掛金で処理するだけなので特に問題ないと思います。

★解答③・残額 250,000 円を売掛金の増加として処理する仕訳

(借) 売掛金 250,000 / (貸) 売上 250,000

【発送費用に関する仕訳】

問題文のなお書きに「長野商店負担の発送費用 ￥10,000 については現金で支払った」とあるので、この発送費用は**得意先負担であると判断**し、売掛金勘定または立替金勘定で処理します。

さらに本問の場合、問題文に列挙されている勘定科目に立替金勘定がないので、**売掛金勘定を使って処理すると判断**します。なお、発送費用を当店で負担する場合は、発送費勘定や支払運賃勘定、発送運賃勘定等で費用処理します。

- ・ 発送費用を得意先が負担する場合 … 売掛金勘定または立替金勘定で処理
- ・ 発送費用を 当店 が負担する場合 … 発送費勘定や支払運賃勘定、発送運賃勘定等で費用処理

★解答④・得意先負担の発送費用の支払に関する仕訳

(借) 売掛金 10,000 / (貸) 現金 10,000

以上、①②③④をまとめると解答仕訳になります。

3. 当座取引に関する問題です。

当座取引の処理に関しては、【当座預金勘定と当座借越勘定を使う 2 勘定制】と【当座勘定のみを使う 1 勘定制】の 2 つが考えられますが、この分野は日商簿記検定 3 級の頻出論点なので、どちらの処理も必ず押さえておきましょう。本問は、問題に列挙されている勘定科目に**当座預金・当座借越勘定がある（当座勘定がない）**ので、2 勘定制で処理すると判断します。

■当座預金勘定と当座借越勘定を使う 2 勘定制の仕訳（解答）

当座を増加させるような取引（商品の売上や有価証券の売却など）の場合は、まず当座借越があるか確認します。当座借越があればそれを相殺したうえで残りを当座預金勘定に計上し、ない場合は全額をそのまま当座預金勘定に計上します。

逆に、当座を減少させるような取引（商品の仕入や有価証券の購入など）の場合は、まず当座預金の残高があるか確認します。当座預金の残高があればそれをゼロになるまで減額したうえで残りを当座借越勘定に計上し、ない場合は全額をそのまま当座借越勘定に計上します。

本問の場合、問題文の「**当座預金出納帳の貸方残高は ￥700,000**」から、当座借越 700,000 円が計上されていることが分かるので、700,000 円についてはこの当座借越と相殺し、残額の 100,000 円については当座預金勘定で処理します。

★解答・当座預金勘定と当座借越勘定を使う 2 勘定制の仕訳

(借) 当座借越 700,000 / (貸) 現金 800,000

(借) 当座預金 100,000

■当座勘定のみを使う 1 勘定制の仕訳（参考）

参考までに 1 勘定制による場合の仕訳も確認しておきましょう。当座に関する仕訳は全て「当座勘定」を使って機械的に処理するだけなので 2 勘定制よりも簡単です。

☆参考・当座勘定のみを使う 1 勘定制の仕訳

(借) 当座 800,000 / (貸) 現金 800,000

当座取引に関する問題は、第 100 回の問 2や第 103 回の問 5、第 104 回の問 2、第 105 回の問 1、第 114 回の問 5、第 121 回の問 5、第 122 回の問 2、第 125 回の問 5、第 129 回の問 1、第 133 回の問 1、第 135 回の問 5、第 136 回の問 5、第 137 回の問 1でも出題されているので、あわせてご確認ください。

4. 通信費の支払いに関する問題です。

通信費勘定と普通預金勘定を使って普通に仕訳を切るだけなので、特に説明ありませんが、当座預金勘定を使って処理してしまった方は、解答時に勘定科目のチェック作業を怠らないように気をつけてください。

5. 訂正仕訳に関する問題です。

訂正仕訳に関しては以下の流れで機械的に処理することが出来るので覚えてください。

- ① 間違って切ってしまった仕訳を書きだす
- ② ①の逆仕訳を書きだす
- ③ 正しい仕訳を書きだす
- ④ ②と③の仕訳をまとめる

それでは、本問の仕訳を当てはめて確認してみましょう。

問題文に「仕入先伊達商店に買掛金 ¥ 180,000 を現金で支払ったさいに、誤って仕入に計上していた」とあるので、仕入勘定を使って切った仕訳（間違って切ってしまった仕訳）は以下のとおりです。

☆① 間違って切ってしまった仕訳を書きだす

(借) 仕入 180,000 / (貸) 現金 180,000

次に「1.の逆仕訳」を考えますが、これは単純に貸借を逆にするだけなので簡単です。さらにその次に正しい仕訳を考えますが、買掛金を現金で支払うだけなので特に問題ないと思います。

☆② ①の逆仕訳を書きだす

(借) 現金 180,000 / (貸) 仕入 180,000

☆③ 正しい仕訳を書きだす

(借) 買掛金 180,000 / (貸) 現金 180,000

最後に②と③の仕訳をまとめます。

★④ ②と③の仕訳をまとめる

~~(借) 現金 180,000 / (貸) 仕入 180,000~~
(借) 買掛金 180,000 / ~~(貸) 現金 180,000~~

訂正仕訳は順番通りに、**機械的に処理するのが一番間違いが少ない**ですし、第 1 問以外の訂正仕訳の処理でも全く問題なく使えるので、上記のやり方を覚えてください。

訂正仕訳に関する問題は、第 112 回の問 5や第 115 回の問 2でも出題されているので、あわせてご確認ください。